

栃木県立図書館運営評価（令和 7（2025）年度）

1 運営評価について

栃木県立図書館では、図書館法及び文部科学省「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に規定された公共図書館の運営状況に関する自己評価として、より客観的な視点からサービスの充実を図るため、平成 25(2013)年度から栃木県立図書館運営評価を導入している。

- ・平成 23(2011)年度 「栃木県立図書館あり方検討委員会」設置
「とちぎの知の拠点」として目指すべき姿を提示
- ・平成 24(2012)年度 文部科学省「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」改正告示
運営状況に関する自己評価実施などに関する規定整備
- ・平成 25(2013)年度 栃木県立図書館運営評価導入
- ・平成 30(2018)年度 評価指標の改定
- ・令和 6（2024）年度 各評価指標の基準値年次を見直し
一定の成果を得たもの及び社会情勢の変化により指標値の取得方法に変更を要するものについて指標を改定

2 根拠法令

【図書館法】

（運営の状況に関する評価等）

第 7 条の 3 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

【図書館の設置及び運営上の望ましい基準】（平成 24(2012)年 12 月 19 日文部科学省告示第 172 号）

第二 公立図書館

一 市町村立図書館

1 管理運営

（一）基本的運営方針及び事業計画

- 1 市町村立図書館は、その設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（以下「基本的運営方針」という。）を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 2 市町村立図書館は、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、基本的運営方針並びに前項の指標、目標及び事業計画の策定に当たっては、利用者及び住民の要望並びに社会の要請に十分留意するものとする。

（二）運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、（一）の 2 の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。

二 都道府県立図書館

6 準用

第二の一に定める市町村立図書館に係る基準は、都道府県立図書館に準用する。

3 構成

「栃木県立図書館あり方検討委員会報告書」（平成 24(2012)年 1 月）において「目指すべき姿」とされた 3 つの目標、及び令和 7 (2025)年度経営方針における重点施策を踏まえ、以下の 4 機能について、評価指標を設定する（別紙「体系図」参照）

目指すべき姿[1] “とちぎ”のことなら何でもわかる図書館

重点施策1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

- ① 地域資料情報センター機能の充実

目指すべき姿[2] 県内図書館をリードする中核的図書館

重点施策2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

- ② 市町立図書館等支援機能の充実
- ③ 読書活動支援機能の充実

目指すべき姿[3] 県民の課題解決のための図書館

重点施策3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

- ④ 課題解決支援機能の充実

4 評価方法と実施サイクル

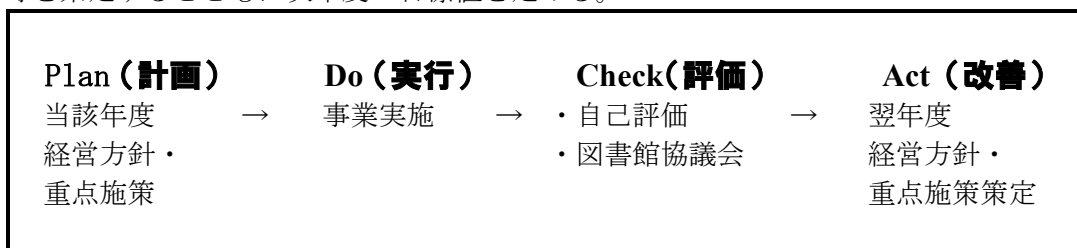
(1) 評価方法

各評価指標に対して数値目標を設定し、その達成度を評価する。

数値目標に対する達成率	評価
目標を達成した（100%以上）	A
概ね目標を達成した（80%以上 100%未満）	B
目標をある程度達成した（60%以上 80%未満）	C
目標をあまり達成できなかった（40%以上 60%未満）	D
目標を達成できなかった（40%未満）	E

(2) 実施サイクル

各指標に対して自己評価を行い、図書館協議会からの意見を反映しながら次年度の経営方針等を策定するとともに次年度の目標値を定める。



栃木県立図書館運営評価の体系図

目指すべき姿

～とちぎの“知”の拠点としての更なる飛躍のために～

[1] “とちぎ”のことなら
何でもわかる図書館

[2] 県内図書館をリードする
中核的図書館

[3] 県民の課題解決の
ための図書館

【基本理念】

県立図書館は、過去から引き継がれてきた“知”との出会いと、新たに未来へつなぐ創造の場であり、人と情報、人と人をつなぎ、とちぎを支える“知”の拠点である。

〔R7(2025)重点施策〕

重点施策1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

①地域資料情報センター機能の充実

- ・地域資料の網羅的収集
- ・栃木県に関する情報発信

〔R7(2025)評価指標〕

- 1 地域資料蔵書数
- 2 レファレンス協同データベース(本県地域関係)新規・更新事例登録数
- 3 「とちぎ」に関するテーマ展示回数
- 4 地域資料貸出点数
- 5 地域資料に係るレファレンス件数

重点施策2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

②市町立図書館等支援機能の充実

- ・相互貸借体制、栃木県総合目録システムの充実
- ・市町立図書館等に対するレファレンス支援、職員研修の充実

- 1 相互貸借点数(当館貸出分シェア)
- 2 当館支援に係る市町立図書館等満足度
- 3 市町立図書館等協力レファレンス件数
- 4 総合目録検索件数
- 5 図書館職員対象研修会参加人数
- 6 図書館職員対象研修会参加者満足度

③読書活動支援機能の充実

- ・子どもの読書活動を推進するための、指導者のスキルアップや関係機関との連携強化

- 7 子どもの読書ボランティア指導者派遣依頼者満足度
- 8 児童サービス研修会参加者満足度
- 9 児童サービス研修会参加者人数

重点施策3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

④課題解決支援機能の充実

- ・社会情勢等に応じたテーマによる課題解決支援

- 1 パスファインダー作成点数及び配布点数
- 2 テーマによる展示実施回数
- 3 利用者満足度(資料・情報の入手)
- 4 レファレンス件数
- 5 HPトップページアクセス件数
- 6 県立図書館蔵書検索件数
- 7 県内図書館横断検索件数(総合目録案件数の再掲)
- 8 身体障害者への資料郵送貸出点数

5 評価

目指すべき姿[1] “とちぎ”のことなら何でもわかる図書館

重点施策 1 知の財産を守り育み、発信する取組の充実

栃木県に関する資料の網羅的な収集と保存を行い、「栃木県に関わる情報の総合窓口」として、地域資料・情報の保存及び発信を行う。

① 地域資料情報センター機能の充実

【令和 7 (2025) 年度の具体的な取組】

- ・ 出版情報や古書目録、新聞、雑誌、インターネット等、多様な媒体を通じて地域資料の出版情報を収集し、蔵書の更なる充実を図った。
- ・ 本県出身や在住等のゆかり作家による作品、本県を舞台とする文学作品等について、積極的に収集した。
- ・ デジタルアーカイブ「栃木県立図書館デジタルコレクション」に電子行政資料を追加し、コンテンツの充実を図った。
- ・ 資料保存のため、地方紙の合冊製本や閲覧頻度が高く傷みが生じている地域資料の修理製本を進めた。
- ・ 当館所蔵資料の活用と周知を目的とし、映画「島守の塔」の DVD 鑑賞会を実施した。
- ・ 県内出版社との連携トークイベント「出版×図書館の過去・現在・未来 ～うさぎ追いかの本、かの資料～」を開催した。
- ・ 文書館、美術館、博物館等に対して、企画展のための資料の特別貸出等を行うとともに、地域資料室内に各館の企画展と連携した展示コーナーを設置し、情報発信を行った。
- ・ とちぎに関する調査依頼に丁寧に対応するとともに、国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」へ積極的に事例を登録し、利用者の調査支援に努めた。
- ・ 図書館だよりやホームページ、研修等のさまざまな機会を捉えて、地域資料室やレファレンスサービスの周知を図った。

評価指標 1-1

地域資料蔵書数【地域資料の充実度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
97,951 点 (R4 実績)	目標	100,500 点	102,300 点	104,500 点
	実績	101,530 点	103,548 点	
	達成率	101%	101.2%	
	評価	A	A	

評価指標 1-2**レファレンス協同データベース*1 本県地域関係新規・継続事例登録数**

【栃木県に関する調査研究への支援成果及びその全国への情報発信を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
60点 (R4実績)	目標	60点	60点	60点
	実績	30点	60点	/
	達成率	50%	100.0%	
	評価	D	A	

*1 レファレンス協同データベース

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している調査用データベース。レファレンス事例、調べ方マニュアル、特別コレクション及び参加館プロフィールに係るデータを蓄積し、インターネットを通じて提供することで調査研究活動を支援することを目的とする。

評価指標 1-3**「とちぎ」に関するテーマ展示回数【地域資料の充実度を示す】**

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
19回 (R4実績)	目標	20回	20回	20回
	実績	55回	60回	/
	達成率	275%	300.0%	
	評価	A	A	

評価指標 1-4**地域資料貸出点数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】**

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
2,107点 (R4実績)	目標	2,100点	2,100点	2,100点
	実績	1,842点	1,773点	/
	達成率	88%	84.4%	
	評価	B	B	

評価指標 1-5**地域資料に係るレファレンス件数【栃木県に関する調査研究への支援状況を示す】**

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
2,776件 (R4実績)	目標	2,300件	2,300件	2,300件
	実績	2,395件	2,605件	/
	達成率	104%	113.3%	
	評価	A	A	

【自己評価・分析】

- ・ 県庁内や学校図書館からの寄贈・移管の照会が増加しており、地域資料の保存施設として認知が進んだものと思われる。
- ・ 県の電子行政資料については、平成 30(2018)年度から収集を開始しており、ペーパーレス化の推進とともに発行件数が増加の一途をたどっている。県庁内への照会方法等を適宜見直すことで、安定的な収集・管理ができています。
- ・ 映画鑑賞会、連携トークイベント、ともに参加者から好評を博し、今後も開催を望む声も多く聞かれた。当館所蔵資料を活用したイベントを通して、県民に直接、地域資料を収集・保存する意義を伝える場をつくることができた。
- ・ 文書館、美術館、博物館との連携展示に加え、県民の日関連展示「栃木県立図書館 EXPO ～未来といのちにフィーチャーする～」などの展示を行い、本県の魅力発信と利用者の興味感心の喚起につなげることができた。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への継続的な事例登録は 1,200 件を超え、とちぎに関する情報の調査支援の強化につながっている。また、当館は本事業への協力が評価され、16 年連続で国立国会図書館長から感謝状を授与されている。

【図書館協議会委員からの意見】

(資料・蔵書全般)

- ・ 紙の本の予算をぜひ確保してほしい。併せて、学校では電子書籍をタブレットで読める環境が増え、紙での読書が困難な子ども読書できるようになっている。電子資料も県内図書館間で連携して、学校支援に活用してほしい。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 地域資料の充実に向けて、個人や学校、企業等が所有する地域資料の発掘に努めるとともに、寄贈依頼を継続して行う。
- ・ 県民の貴重な財産である地域資料の収集、保存に充分配慮しながら関連展示等を通じて地域資料の利用促進を図る。
- ・ 本県の魅力発信につながる展示や県庁各課との連携展示のほか、所蔵資料を活用して時節に応じた鑑賞会や地域資料を活用して県内企業等と連携したイベントの実施にも積極的に取り組むなど、当館の情報発信の裾野を広げるよう努める。
- ・ 電子行政資料の継続的な収集、保存及びホームページ上での公開に努め、県民への提供はもとより行政機関等での資料活用の推進を図る。
- ・ デジタル化資料のうち、著作権等の要件を満たした資料を順次「栃木県立図書館デジタルコレクション」内で公開する。
- ・ 「レファレンス協同データベース」への地域事例等の登録に継続的に取り組み、地域資料やレファレンスの周知を図るとともに、地域に関する様々な情報の調べ方を更に周知する。また、行政職員の業務を支援するため、県庁内へレファレンスサービスの周知を進める。

目指すべき姿[2] 県内図書館をリードする中核的図書館

重点施策2 図書館と人と情報をつなぎ、県民ニーズに対応したサービスを展開

図書館と図書館、人と情報をつなぐ県内の中核的図書館として、図書館ネットワークを強化すると共に、市町立図書館等の支援を行い、県全体の図書館振興を図る。

② 市町立図書館等支援機能の充実

【令和7(2025)年度の具体的な取組】

- ・ 図書館協力ネットワーク会議や満足度調査、巡回相談等で市町立図書館等の要望や意見等を聴取し、資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用をはじめとした市町立図書館等との連携協力体制の強化に努めた。
- ・ 巡回相談については、実施方法を訪問・オンライン・書面の選択とし、市町立図書館職員が参加しやすい環境を整えた。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、講話中心の研修についてオンライン開催とし、後日、研修の様子を動画配信することで、業務の都合等に配慮した参加しやすい研修とした。また、演習や施設見学等を伴う研修については集合型とし、研修の質の向上にも努めた。出張研修や研修の内容については、各図書館等からの研修依頼に積極的に対応した。
- ・ 「栃木県読書活動推進計画」に基づき、「障害者サービス研修会」を開催した。昨年度に引き続き学校図書館関係者を今年度も受講対象とした。
- ・ 様々な機会をとらえて相互貸借制度のPRに努めた。

評価指標 2-1

相互貸借当館貸出分シェア【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
20.7% (R4 実績)	目標	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上	総件数の 20%以上
	実績	19.4%	18.8%	
	達成率	97%	93.9%	
	評価	B	B	

評価指標 2-2

市町立図書館等支援満足度(県内図書館に対する調査)【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
4.3 (R4 実績)	目標	4.2 以上	4.2 以上	4.2 以上
	実績	4.1	4.3	
	達成率	98%	102.4%	
	評価	B	A	

評価指標 2-3

市町立図書館等協力レファレンス件数

【資料の利用提供における市町立図書館への支援状況を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
99 件 (R4 実績)	目標	90 件	45 件	45 件
	実績	48 件	52 件	/
	達成率	53%	115.6%	
	評価	D	A	

評価指標 2-4

栃木県内図書館横断検索ホームページアクセス件数*2

【中核図書館としての機能の充実度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
153,276 件 (新規) (R5.6月～12月 実績の12/7)	目標	160,000 件	160,000 件	160,000 件
	実績	152,727 件	175,232 件	/
	達成率	95%	109.5%	
	評価	B	A	

*2 Web アクセス計測ツール「GoogleAnalytics4」による「栃木県内図書館横断検索」ホームページの「エンゲージメント数」（当該ページ内においてユーザーがクリック・スクロール等の何らかのアクションを行った数）

評価指標 2-5

図書館職員対象研修会参加人数【研修における市町立図書館等への支援状況を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
384 名 (R4 実績)	目標	350 名	350 名	350 名
	実績	355 名	359 名	/
	達成率	101%	102.6%	
	評価	A	A	

評価指標 2-6

図書館職員対象研修満足度【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
4.2 (R4 実績) (5段階評価)	目標	4.0 以上	4.0 以上	4.0 以上
	実績	4.3	4.3	/
	達成率	108%	107.5%	
	評価	A	A	

【自己評価・分析】

- ・ 県内図書館間相互貸借業務に関して、令和2（2020）年度に運用の見直しを行い、搬送回数を減らし、一部図書館について協力車から宅配に搬送手段を切り替えた。市町立図書館等からは、協力車搬送回数の増便や搬送手段を協力車へ戻すよう要望が寄せられているが、予算等の面で応えられていない状況が続いている。
- ・ 市町立図書館等職員を対象とした研修については、令和6（2024）年度から「障害者サービス研修会」を開催し、学校図書館関係者も受講対象としたことにより、研修会参加人数が増加した。また、市町立図書館等をめぐる動向やニーズを考慮しながら研修を企画し、高い満足度を得ることができた。図書館経営研修会については、令和7（2025）年1月に開館した「真岡市複合交流拠点施設 monaca」を会場として、講話及び新館の施設見学を併せて実施し、参加者から好評を得た。
- ・ 協力レファレンスについては、市町立図書館では解決できなかったレファレンスが当館への依頼件数となるため、各図書館における必要性により増減する傾向がある。

【図書館協議会委員からの意見】

（評価指標 2-5、2-6）

- ・ 読み聞かせやブックトークができない図書館職員がいることを最近知った。本を紹介する手段としてブックトークは有効だが、練習や準備が必要なものなので、職員研修で取り上げて、図書館職員ができるようにしてほしい。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 資料相互貸借制度や栃木県図書館総合目録の円滑な運用に努め、市町立図書館等との連携強化を図る。
- ・ 協力レファレンスサービス等の市町立図書館等への支援業務をきめ細かく展開し、県全体の図書館サービスの向上を図る。
- ・ 市町立図書館等に対する職員研修は、オンライン会議システムを活用し、多くの職員が受講しやすい環境を整えるとともに、内容の充実に努める。
- ・ 協力レファレンスについては、研修等の機会を活用し市町立図書館等職員へ案内する等、引き続き周知に努めていく。

③ 読書活動支援機能の充実

【令和7(2025)年度の具体的な取組】

- ・ 子どもの読書活動の推進や研究活動に役立つ資料を積極的に購入し、子どもの読書活動に係る支援機能の充実を図った。
- ・ 関係団体が主催する講座への協力及び連携展示を積極的に行い、子どもの読書活動関係者の利用促進に努めた。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者事業を円滑に運用するとともに、指導者のスキルアップ研修の一部を公開講座とし、広く関係者へ受講機会を提供した。
- ・ 生涯学習課が主催する「高校生読書活動推進事業」に参画し、読書コンシェルジュ育成研修における講師やアドバイザーとして活動を支援した。
- ・ 県高等学校教育研究会図書館部会からの依頼に応じて、教職員を対象とした講話を行った。
- ・ 県立学校等からの求めに応じ、授業支援のための図書セットの作成・貸出を行った。

評価指標 2-7

子どもの読書ボランティア指導者派遣依頼者満足度【読書ボランティア支援の満足度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
5.0 (R4実績) (5段階評価)	目標	4.1以上	4.1以上	4.1以上
	実績	5.0	5.0	/
	達成率	122%	122.0%	
	評価	A	A	

評価指標 2-8

児童サービス研修会参加者満足度【当館の支援に対する満足度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
4.6 (R4実績) (5段階評価)	目標	4.1以上	4.1以上	4.1以上
	実績	4.9	4.7	/
	達成率	120%	114.6%	
	評価	A	A	

評価指標 2-9

児童サービス研修会参加人数【子どもの読書活動支援の充実度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
42名 (R4実績)	目標	30名	30名	30名
	実績	25名	38名	/
	達成率	83%	126.7%	
	評価	B	A	

【自己評価・分析】

- ・ 読書活動支援室内では、関係団体の主催講座と連携した展示や県立美術館企画展「宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展」関連展示など、様々な角度から資料を紹介し、同室の利用促進を図った。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者スキルアップ研修は、公開講座を含め、好評を得ている。また指導者派遣事業についても、依頼者から高い評価を得ている。一方で、登録指導者の減少や後進の育成等の課題もあり、事業全体のあり方について検討を進めている。
- ・ 読書コンシェルジュ関連事業については、当館職員が研修講師等として積極的に参画し、高校生熱心な活動につなげることができた。
- ・ 学校支援に係る図書セットの貸出については、過去に利用実績がある学校からの依頼が増加しており、ニーズや満足度の高さを感じた。また、とちぎ海浜自然の家からも団体貸出の依頼があり、子どもの読書機会の拡充につなげることができた。

【図書館協議会委員からの意見】

(評価指標 2-7)

- ・ 指導者派遣事業は、評価が高い。どの地域でも、読み聞かせボランティアを新規に養成しないとイケない時期に来ており、指導者派遣へのニーズは高い。
- ・ ボランティアのスキルアップだけでなく、新規養成が必要な時期に来ている。やりたい気持ちを育てる、やりたい気持ちがある人を見つけるなど、新規の人材を発掘する必要がある。

(評価指標 2-8、2-9)

- ・ インスタグラムも始めたとのことで、子どもの読書の研修等の情報について、SNS等を活用して積極的に周知してほしい。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ 県内の子どもの読書活動の推進に向けて、引き続き読書活動支援室の充実及びホームページ・SNS等による広報、指導者派遣事業の活性化等に努める。
- ・ 子どもの読書ボランティア指導者事業については、研修内容の充実に努めるとともに、事業自体のあり方について引き続き検討を進める。
- ・ 各種研修事業については、子どもの読書活動をめぐる情勢や参加対象者のニーズに沿った内容となるよう精査に努める。
- ・ 生涯学習課主催の「高校生読書活動推進事業」に積極的に協力し、読書コンシェルジュの育成や活動支援に取り組むとともに、当館内及び主催事業を活用した活動支援にも取り組む。
- ・ 県内高等学校、高校教育課等との連携を深め、県立図書館の活用方法について周知に努めるとともに、研修依頼や図書セット貸出依頼等には個々のニーズを踏まえて細やかに対応する。

目指すべき姿[3] 県民の課題解決のための図書館

重点施策3 知の財産を活用し、県民の課題解決を支援する取組の充実

県立図書館の豊富な蔵書を生かし、社会情勢等に合わせた情報提供を行い、県民の課題解決支援を図る。

④ 課題解決支援機能の充実

【令和7(2025)年度の具体的な取組】

- ・ 県民の課題解決支援のため、図書館資料の充実や契約オンラインデータベースの積極的な活用、様々な関係機関との連携に努めた。
- ・ 「法律情報」「地域福祉情報」を重点テーマとして生活に身近な関連知識を得るための資料の充実に取り組みほか、時節にあったテーマ展示や日本司法支援センター栃木地方事務所（法テラス栃木）と連携した講座を実施し、情報提供を行った。
- ・ 県庁内や関係機関と連携し、ロビーでの連携展示や出張展示、ブックリストの提供などに取り組み、当館及び所蔵資料の周知に努めた。
- ・ 企画展示については、栃木県の魅力発信につながるテーマ展示や関係各所との連携展示、文学賞に関する展示等を行い、利用者の知的関心の喚起と当館所蔵資料の紹介を行った。
- ・ ホームページやSNSを活用して積極的な情報提供を行った。
- ・ 郵送によるコピーサービス等の非来館型サービスを提供した。

評価指標 3-1

パスファインダー^{*3}作成点数及び配布点数

【課題解決のためのツールの提供状況を示す】※()は配布点数

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
10点 (R5見込) (600点) (過去3年実績の平均)	目標	10点 (600点)	10点 (600点)	10点 (600点)
	実績	10点 (954点)	9点 (902点)	/
	達成率	100%	90.0% (150.3%)	
	評価	A	B (A)	

*3 パスファインダー：特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方の案内

評価指標 3-2

テーマによる展示実施回数【社会情勢等に合わせた展示による情報提供の充実度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
43回 (R4実績)	目標	40回	40回	40回
	実績	77回	79回	/
	達成率	193%	197.5%	
	評価	A	A	

評価指標 3-3

利用者満足度(目的の資料・情報が入手できたか)【図書館利用の満足度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
4.2 (R4実績) (5段階評価)	目標	4.2以上	4.2以上	4.2以上
	実績	4.3	4.3	
	達成率	102%	102.4%	
	評価	A	A	

評価指標 3-4

レファレンス件数【調査研究への支援状況を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
8,186件 (R4実績)	目標	7,400件	7,400件	7,400件
	実績	7,333件	6,114件	
	達成率	99%	82.6%	
	評価	B	B	

評価指標 3-5

県立図書館ホームページトップページアクセス数^{*3}

【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
294,907件 (新規) (R5.6月～12月 実績の12/7)	目標	310,000件	310,000件	310,000件
	実績	269,292件	299,941件	
	達成率	87%	96.8%	
	評価	B	B	

*3 Web アクセス計測ツール「GoogleAnalytics4」による栃木県立図書館ホームページのトップページにおける「エンゲージメント数」(当該ページ内においてユーザーがクリック・スクロール等の何らかのアクションを行った数)をアクセス数とする。

評価指標 3-6

県立図書館蔵書検索件数【非来館型情報提供サービスの充実度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
1,841,397件 (R4実績)	目標	1,700,000件	1,700,000件	1,700,000件
	実績	3,758,757件	—	
	達成率	221%	—	
	評価	A	—	

※ロボット検索エンジンによる検索件数が含まれることが明らかとなったため、4月から数値の集計を中止した。

評価指標 3-7 (評価指標 2-4 再掲)**栃木県内図書館横断検索ホームページアクセス件数^{*4}**

【中核図書館としての機能の充実度を示す】

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
153,276 件 (新規) (R5.6月～12月 実績の 12/7)	目標	160,000 件	160,000 件	160,000 件
	実績	152,727 件	175,232 件	/
	達成率	95%	109.5%	
	評価	B	A	

評価指標 3-8**身体障害者への資料郵送貸出点数【ハンディキャップサービスの充実度を示す】**

基準値	区分	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
125 点 (R4 実績)	目標	125 点	125 点	125 点
	実績	143 点	137 点	/
	達成率	114%	109.6%	
	評価	A	A	

【自己評価・分析】

- ・ パスファインダーは館内での配布以外に県民の日など館外でのイベントでも配布に努め、例年と同等の配布枚数を維持しており、当館所蔵資料に関する情報発信及び利用者の自発的な調査の一助となったと考える。配布枚数の傾向から、今後の新規発行や改訂を計画し、さらなる利便性の向上に努めていきたい。
- ・ 昭和 100 年及び終戦 80 年の関連展示「本でたどる昭和・平成・令和」や芥川賞・直木賞関連展示など時節に応じた展示を行い、利用者の興味関心の喚起につなげることができた。
- ・ 文書館、美術館、博物館や県庁各課、JICA 栃木デスクなど、様々な関係機関と連携した展示を行い、多様な切り口からの所蔵資料の紹介につなげることができた。
- ・ 蔵書検案件数は、利用者による検索だけでなくロボット検索エンジンによる検索が件数に含まれていることが明らかとなったため、指標として適切かを検討する必要がある。
- ・ システム更新により新ホームページが稼働した。更新に伴い大幅なコンテンツの整理を行うとともにアクセシビリティの改善を図った。
- ・ 身体障害者への資料郵送貸出については、登録利用者の高齢化等により利用が減少傾向にある。本サービスの登録には、手帳の所持を要件としているため、本サービスの更なる周知に加えて、本サービスの利用対象外となる障害者等へのサービス展開について検討している。

【図書館協議会委員からの意見】

(評価指標 3-3、3-5 関連)

- ・ 図書館の利用者数について、16～22 歳の世代が増えていると感じた。SNS や若者向けのイベントの効果が出ているのではないかと。
- ・ これだけの継続業務があり多忙な中、せっかく新しく始めたことがあるなら大々的に PR してはどうか。例えば、「インスタグラムのフォロワーを増やす」を目標に掲げて、そのために何が出来るかを集中的に考えるなど。

【今後の方向性及び次年度の方針】

- ・ パスファインダーの配布点数の傾向を踏まえ、今後も地域に関する需要の高いテーマを扱い、利用者のニーズをより満たすものを目指す。また、既存のパスファインダーについても、情報の更新・追加等を行い、より充実した情報提供を目指す。
- ・ 引き続き、様々な関係機関と連携した展示や時節に応じた旬なテーマの展示を企画し、図書館利用や読書への興味・関心の喚起に努めるとともに、当館所蔵資料のPRを行う。
- ・ ホームページやSNS等の更なる充実や活用により、非来館型サービスの充実を図る。
- ・ 利用者アンケートの意見を積極的に反映し、サービスを展開する。
- ・ 障害者、高齢者、外国人等、図書館利用に障害がある様々な方にも配慮し、資料の収集やサービス提供に努めるとともに、関係機関と連携し、資料等がより利用しやすい環境の充実を図る。